

研究課題	創造性豊かな表現力をもった児童の育成
副題	～多様な人とつながるために～
キーワード	表現力・ICT活用
学校/団体名	私立学校法人ザベリオ学園 郡山ザベリオ学園小学校
所在地	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字古屋敷 102
ホームページ	<a href="https://www.xaverio.ed.jp/">https://www.xaverio.ed.jp/</a>

## 1. 研究の背景

昨年度、本校における児童の実態を見つめ直した際に、多くの教員から児童の「自らの考えを表現する力」、「互いに学び合いながら、多様な考えを尊重する力」をさらに伸ばす必要があるという声が上がった。この課題意識に基づき、本校では、学習指導要領に則って、あらゆる学びの基盤となる「知識・技能」を活用し、児童が主体的に課題解決に取り組むために不可欠な「表現力」に焦点を当てた研究を行いたいと考えた。この研究を通して、児童が自らの考えを様々な形で表現し、互いに学び合う授業を創造することで、本校全体の授業改善を目指していきたいという考えに至った。

また、本校ではこれまで ICT 活用にも積極的に取り組んできた。その中でも、特にロイロノートを活用した授業実践を進めてきた。その成果が認められ、東北地方の小学校としては初めて「ロイロノート認定校」となることができた。この実績を活かし、本校教員は、全国の ICT 活用の発展のために各方面へ赴き、講演等も多数行うなど情報発信にも努め、実績を積んできている。さらに、Google や Apple のアプリケーションなど、多様な ICT ツールを複合的に活用することで、児童のより深い学びを促すための ICT 活用の研究・実践も日々重ねてきた。これらの経験を基に、「表現力」と「ICT」を融合させた、本校独自の授業モデルを構築したいと考えた。

具体的には、児童が「目的に応じて表現方法を主体的に選択して学びを深めていく」ことを目指していくこととした。まずは、児童に多様な表現方法を体験させることで、児童自らが表現の方法を選択できるようにさせたい。次に児童がその表現の仕方を互いに共有することで、各自の表現方法の選択肢をさらに増やし、より深い学びができるように導いていきたい。そして、活発な対話を通して、児童の創造性豊かなコミュニケーション能力を伸ばし、未来を担う子どもたちの育成に貢献したいと考えた。

## 2. 研究の目的

研究の背景を受けて、次の2つの目標を設定した。

- ① ICT を活用しながら、自信をもって自分の考えを相手に表現できる児童・より良い表現方法を主体的に選択し、より高いレベルのプレゼンテーションスキルを身に付けることができる児童の育成。
- ② 公開授業を行い、多数の教育関係者に情報発信し、郡山市内および福島県の ICT 教育のレベルアップに貢献できるようにする。

### 3. 研究の経過

研究の目的を達成するために、今年度は、全教員が研究に携わり、学校全体で課題に取り組んでいけるように考えた。研究の経過は以下の通りであるが、特に◇の「小・中合同公開研究会」と「表現祭」の2つの実践を大きな柱ととらえて研究を進めていくことにした。

時期	取り組み内容	評価のための記録
4	小中合同公開研究会に向けての教科部会発足・授業者決定 Google・ロイロ研修	「表現力・ICT アンケート①」の実施と分析
5	授業実践開始・研究授業①（2年国語） Google・ロイロ研修	研究授業事後研究会
6	研究授業②（1年図工×英語） Apple・Canva研修	研究授業事後研究会
7	授業実践・Apple・Canva研修	
8	校内研修会の実施・外部研修会に登壇	
9	◇小・中合同公開研究会（9月18日）	公開授業事後研究会（クラスブックデータの活用） 事後アンケートの実施と分析
10	研究授業③（5年体育）教科部会での研究授業準備	研究授業事後研究会
11	◇表現祭（11月1日） 研究授業④（4年国語）	「表現力・ICT アンケート②」の実施と分析 研究授業事後研究会
12	研究授業⑤（5年社会×算数） Apple・Canva研修（外部向け） 先進校視察	研究授業事後研究会 先進校視察報告会
1	実践のまとめ・授業改善に向けての話し合い(各教科)	各教科のポイントまとめ
2	実践のまとめ・授業改善に向けての話し合い(各教科)	各教科のポイントまとめ
3	次年度に向けての課題まとめ	

### 4. 代表的な実践

#### (1) 小・中合同公開研究会（9月18日実施）

本学園は、幼小中一貫校であり、各部門の子どもたちの交流活動も積極的に行っている。その中で、ここ数年、小中合同で授業公開ができないか、という声が上がリ、その実現に向けて話し合ってきた。今回の「パナソニック実践研究」は小学校の実践になるが、中学校も同じ研究課題で授業研究を進めることになった。そのため、公開授業の名称を「小・中合同公開研究会」とし、その立案・運営は小中の研究部が中心となって行った。以下の報告は、小学校の実践についてまとめたものになる。

<小・中合同公開研究会概要>

<p><b>【日 時】</b> 9月18日(木) 13:00~16:50</p> <p><b>【対 象】</b> 近隣県を含む教員・教育関係者・保護者</p> <p><b>【内 容】</b> 第1部 小・中公開授業 第2部 野中潤先生による ICT ワークショップ 「個別最適で協働する AI 活用最前線」</p> <p><b>【後 援】</b> パナソニック教育財団・郡山市教育委員会・株式会社 LoiLo</p>	<p><b>公開研究会案内チラシ</b></p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------

<研究グループと研究授業一覧>

研究グループは、校内の2つの教科部会を合わせたメンバーで構成し、各グループが公開授業1つと校内研究授業1つを行うこととした。(保健体育部会は単独で校内研究授業のみを実施) 授業内容については、研究課題である「創造性豊かな表現力をもった児童の育成」を目指し、「教科横断」と「ICT活用」の2点を意識して研究を進めていくこととした。教科横断については、教科の枠にとらわれることなく、児童も教員も新しい発想やアイデアを生み出すことで創造性の向上を実現できると考えた。さらには、これまで身に付けてきたICT活用力をよりレベルアップさせることにより、児童の表現の幅を広げていきたいと考えた。

学習指導案作成については、ICT活用の一つと考え、すべての授業を基本的にロイロのプロット図で作成することとした。

研究グループ	公開授業内容	公開以外の研究授業内容
音楽/国語	音楽/国語の教科横断(6年) SOUZOU しよう♪「やまなし」の世界	国語(4年) リーフレットに書くことを決めよう
算数/社会	算数/社会の教科横断(3年) 住んでいる地域によって使っているスーパーにちがいはあるのかな	社会/算数教科横断(5年) 工業製品の輸入・輸出の特徴を調べよう
英語/図工	英語と図工の教科横断(5年) 福島の魅力を大発見! Fukushima Show&Tell	図工/英語教科横断(1年) スルスルビューンの遊び方を英語で教えよう!
保健体育	※公開授業は行わないが、実践助成金で購入したパルスオキシメーターを使用した研究授業を実施する。	体育(5年) 自己調整しながら全力を出し切る子どもの育成 ~自分の体を可視化する持久力~

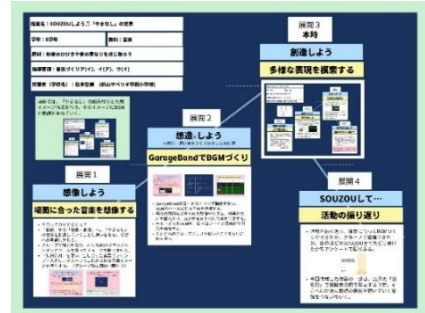
**音楽／国語 SOUZOU しよう♪「やまなし」の世界**

国語科で「やまなし」の読み取りと視覚イメージ作成を行い、その後音楽科でBGMを作成し、朗読と音楽で表現を創造する学習。

◇教科横断…音楽科・国語科

◇ICT活用（アプリケーションの活用）

- ・SUNO AI…BGMの音楽イメージを膨らませる活動
- ・Garageband→BGMづくり
- ・ロイロノート→共有ノート・シンキングツールを使ってイメージ作り・イメージの共有・課題提出・アンケートの実施・指導案作成
- ・クラストック→授業記録と分析



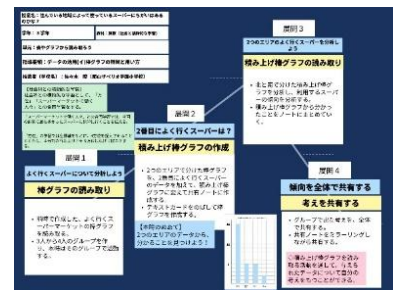
**算数／社会 住んでいる地域によって使っているスーパーにちがいはあるのかな**

社会科で、自分たちの地域にあるスーパーマーケットを8方位に分けて情報収集を行い、算数科で利用状況を棒グラフにまとめ、その分析を行う学習。

◇教科横断…算数科・社会科

◇ICT活用（アプリケーションの活用）

- ・ロイロノート→共有ノート・課題提出・指導案作成
- ・Googleアプリ→アンケートの実施
- ・クラストック→授業記録と分析



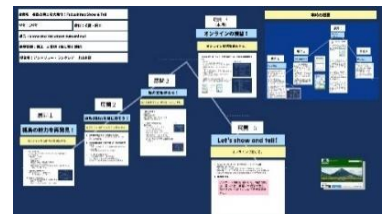
**英語／図工 福島の魅力が大発見！ Fukushima Show&Tell**

福島県魅力を英語で伝える練習を英語科で行う。魅力は図工科で作成した絵でも表現し、オンライン交流を行う学習。

◇教科横断→英語科・図工科

◇ICT活用（アプリケーションの活用）

- ・zoom→オーストラリアのクラスメイトとオンライン交流
- ・ロイロノート→共有ノート・アンケート
- ・ループリック→評価
- ・クラストック→授業記録と分析



**事後研究会・野中潤先生（都留文科大学教授）によるICT研修**

事後研究会には本校教員を含む約50名が参加した。野中先生からも指導助言をいただきながら、活発な意見交換が行われた。クラストックの授業記録を参考に、各教科メンバーで授業の分析を行うことができたことは今後の実践につながる大きな学びとなった。



また、野中先生によるICT研修では、学校現場における生成AI活用についてのワークショップが行われた。AI活用が「創造性豊かな表現」にどのように活かせるかなど、本校独自の新たな教育モデルを考える上で、大きなヒントを得ることができた。

(2) 表現祭 (11月1日実施)

昨年までは、毎年学級ごとに歌を発表する「音楽祭」を行ってきた。この行事を、今年度は、音楽だけでなく、他の教科ともつながる表現活動を取り入れた新しい行事「表現祭」として行うこととした。この「表現祭」を通して、児童がそれぞれの学年に合った方法で、多様な表現に挑戦するという経験になればよいと考えた。また、児童と教員とが互いに関わり合いながら一つの作品を作り上げるその過程を大切にしたいと考え、実施した。表現祭全体のテーマは、「わたしとあなたでつくる、色とりどりの表現！」とし、自分たちらしい表現を創り上げることを目指した。

表現祭当日は、約 300 人の保護者が参観する中、どの学年・学級の児童も、練習の成果を発揮し、さらには、自分たちらしさを表現しながら楽しく発表することができた。今回、子どもたちが新しい表現方法に挑戦したことで、これまでの歌のみの発表と比べて、より豊かに、より生き生きと表現することができたのではないかと感じている。



<全体テーマ>

「わたしとあなたでつくる、色とりどりの表現！」

<発表内容・表現方法一覧>

学年・学級	発表内容・表現方法
1年1組	歌『あおいそらにえをかこう』・振り付け・デジタル背景の制作
1年2組	歌『ありがとうの花』・振り付け・デジタル背景の制作
2年1組	歌『世界に一つだけの花』・花の制作・振り付け・メッセージ・デジタル背景の制作
2年2組	歌『WA になっておどろう』・楽器の制作・振り付け・デジタル背景の制作
3年	歌『ビリーヴ』・家族や友達への感謝の言葉や世界の人々に向けたメッセージ・デジタル背景の制作
4年	歌『Spooky, Scary Skeletons』『In the Hall of the Pumpkin king』 パフォーマンス・衣装制作・デジタル背景の制作
5年	歌『ベツレヘムの町』・音読表現・舞台装飾制作・デジタル背景の制作
6年	歌『絆』国語「やまなし」の BGM と音読発表・舞台背景準備



手作りの花を手に「一人ひとりが大切な存在。自分らしく輝こう」というメッセージを届けた2年生。



手作りの衣装を身にまとい、まるでミュージカルのようなパフォーマンスを見せてくれた4年生。



身振り手振りを入れながら、歌の歌詞を国語の音読表現の世界観で表現した5年生。

5. 研究の成果

<目標①について>

今回の研究成果は、アンケート結果に基づいて分析していく。

研究を始めるにあたり、2年生から6年生の児童と教員を対象に「表現とICTに関するアンケート」を行った。アンケートは今年度がスタートした4月と、「表現祭」を終えた後の11月に実施し、その変化を比較した。

4月の結果では、「表現することの楽しさ」や「ICTを利用した表現の楽しさ」について、児童・教員共に高い評価を得た。一方で、「相手や目的に応じて表現方法を選ぶ」「新しい表現方法に取り組む」という点においては評価が低く、今後の課題が明確になった。また、「ICTの活用が自分の表現力向上に役立っている」という点においては、児童は低く評価した一方、教員は高く評価しており、意識の差が見られた。

この結果を受け、教員間で情報を共有し、教員一人ひとりが、それぞれの授業づくりに活かすことができるように促した。特に「相手や目的に応じて表現方法を選択すること」「新しい表現方法に取り組むこと」を意識して日々の教育活動を行うことで、児童がさらに豊かな表現力を身に付け、児童自身が表現力の成長を実感できることを目指した。その成果は、11月実施のアンケート結果に表れ、児童・教員共に、ほとんどの項目で評価が上がった。

このことから、今回の研究を通して、私たちが目指してきた「創造性豊かな表現力をもった児童の育成」に、一定の成果を上げることができたと考える。

<アンケート結果3項目の比較（4月→11月）>※小数第二位を四捨五入

項目 対象	相手や目的に応じて表現方法を選択する		新しい表現方法に取り組む		ICT活用が表現力向上に役立っている		
	4月	11月	4月	11月	4月	11月	
児童	74.9%	85.2%	+10.3	71.4%→80.1%	+8.7	58.0%→68.7%	+10.7
教員	44.4%	66.7%	+22.3	55.6%→61.1%	+5.6	88.2%→88.9%	+0.7

4月実施アンケート結果（児童）

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
表現することの楽しさ	78	26	22	10	13	21	12	6	20	22
ICTを利用した表現の楽しさ	69	36	32	37	37	33	32	38	35	40
相手や目的に応じて表現方法を選ぶ	66	37	33	31	31	32	38	30	34	38
新しい表現方法に取り組む	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ICT活用が表現力向上に役立っている	13	14	11	8	7	13	6	4	11	11

アンケート結果（3項目）の比較

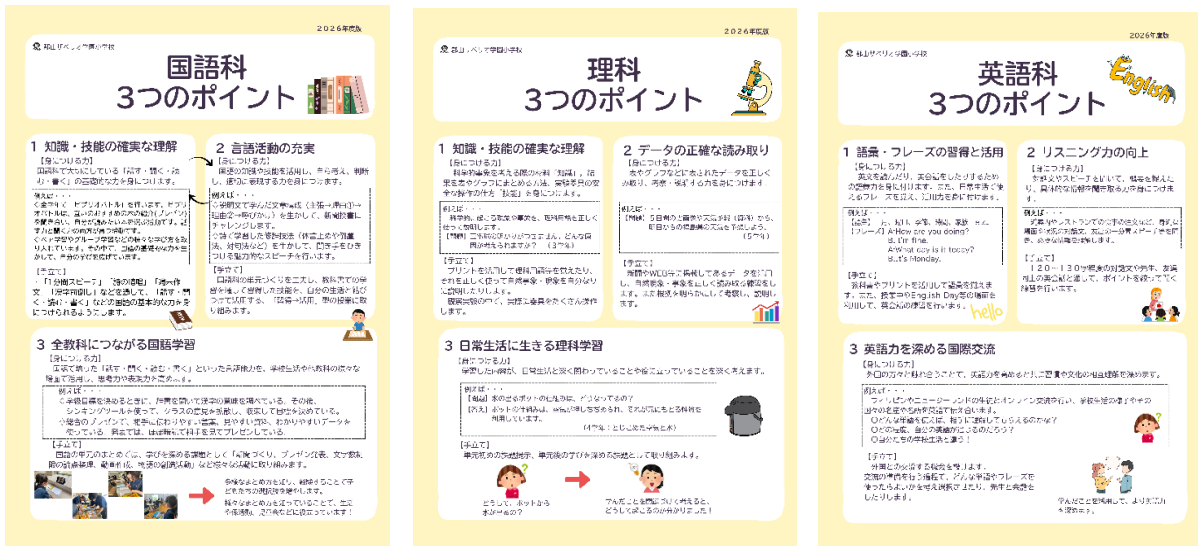
	質問4)同じ内容を伝えるときでも、相手や目的によって伝え方を考え、びったり合う伝え方を選んでいる。	質問8)自分の得意な表現のしかただけでなく、新しい表現のしかたにも、取り組もうとしている。	質問15)ICT(タブレットやパソコン等)を使うことで、自分の表現力が成長したと感じたことがありますか。
児童			
第一回の%	74.87%	71.43%	57.95%
第二回の%	85.20%	80.10%	68.72%
差	10.33%	8.67%	10.77%
	とてもよくなった	とてもよくなった	とてもよくなった
先生方			
第一回の%	44.44%	55.56%	88.24%
第二回の%	66.67%	61.11%	88.89%
差	22.22%	5.56%	0.65%

<目標②について>

今回の研究を通して、教員一人ひとりがこれまでの自分の授業を振り返り、新たな授業づくりにチャレンジできたことは、大きな成果の一つであると考え。「小・中合同公開研究会」や「表現祭」に向けて研究を進めたことは、児童の表現力向上のみならず、教員一人ひとりの授業改善や授業力向上にもつながった。

また、「ICT活用の発展」を目指し、公開研究会にとどまらず、外部向け研修の実施などを通して、今年度はICT教育に関する情報発信をより積極的に行うことができたと感じている。

今回の研究のまとめとして、各教科でさらなる授業改善のために話し合いを行い、基礎・基本の定着という視点も含めて「授業の3つのポイント」を作成した(写真参照)。今後は、このまとめを保護者とも共有し、本校の教育について継続的に情報発信していく予定である。



6. 今後の課題・展望

今年度本校は、「創造性豊かな表現力をもった児童生徒の育成」を研究課題に掲げ、学校全体で実践研究に取り組み、一定の成果を収めることができた。特に「目的に応じて表現方法を主体的に選択して学びを深めていく」という本校独自の授業モデルの構築を進め、児童の思考としての創造性を育成することについては一定の成果を上げることができたと考えている。しかしながら、実践を進める中で、次の3つの課題が明確になった。

- ① 思考の創造性はある程度引き出せたが、想像したものをリアルに表現する機会が少なかった。
- ② 想像を「創造」するための具体的な手立て(ツール)が不足していた。
- ③ より深い創造性につながる「表現の選択肢」を多く提示できなかった。

これらの課題を解決するために、来年度は、これまでの思考を深めるICT活用に加え、「リアルにもものを創る経験」を提供することで、児童が自らの想像を具体的な「形」にするステップに焦点を当て、研究を継続・発展させていきたいと考えている。

## 7. おわりに

今回、実践研究校に選出していただき、助成をいただいたパナソニック教育財団の皆様、そして本研究にたくさんのご助言とサポートをいただいたオンラインサポートチームの皆様に、心より感謝を申し上げます。おかげさまで、充実した環境の中、安心して研究に邁進することができたと感じている。

「表現力の豊かさ」は、はっきりと目に見えるものではないが、自分の思いや考えを、自信をもって相手に伝える力は、未来を担う子どもたちに欠かすことのできない重要な力だと考えている。今後も、学校全体でこの研究課題に向き合い、さらなるレベルアップを目指して教育活動に当たりたいと思う。

最後に、本研究のために力を注ぎ、共に研究を進めてくださった小・中研究部の先生方、授業づくりに協力をしてくださった全ての先生方にも、感謝の気持ちを伝えたい。

## 8. 参考文献

- ・『ICT で変える国語授業～基礎スキル&活用ガイドブック～（2021）』（野中潤）
- ・『ICT で変える国語授業②～応用スキル&実践事例集～（2021）』（野中潤）
- ・『ICT で変える国語授業③～Google Workspace for Education～(2022)』（野中潤）